



特定非営利活動法人

メコン・ウォッチ

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F

Tel: 03-3832-5034, Fax: 03-3832-5039

E-mail: info@mekongwatch.org

Website: http://www.mekongwatch.org

メコン・ウォッチファクトシート ドンサホンダム(メコン河本流ダム)

■所在地

ラオス南部チャンパサック県コーン郡。メコン河が分流して形作られる広大な湿地（シーパンドン）を流れる、フー・サホン分流に建設が予定されている。

■事業主体：

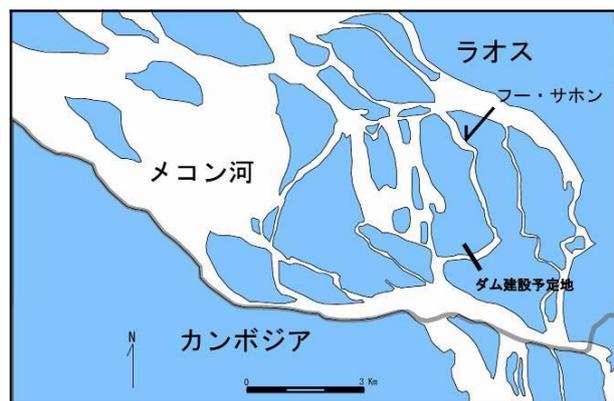
- ・ドンサホン電力社：Ground Roses Ltd が 79%、Silver Acreage Ltd が 20%、ラオス電力公社 (EDL) が 1%を出資。
- ・ダムは、メガ・ファースト社 (Mega First Corporation Berhad: MFCB)の一部として運営されるが、MFCB はダムの技術・調達・建設を 50 か月 3 億 2 千万米ドルの契約で中国・シノハイドロ社に委託した。

■事業費・供与先

事業費は約 3 億米ドル程度と発表されていたが、2013 年 11 月のラオス政府関係者の発言では、7.231 億米ドルとなっている。供与先未定。



建設予定地のフー・サホン(乾期)



フー・サホンの位置

■プロジェクトの概要

ドンサホンダムは 260MW の水力発電ダムで、カンボジアとの国境から上流に約 2 キロメートル弱のラオス国内に位置し、フー・サホンと呼ばれるメコン本流の分流に建設される。事業主体はドンサホン電力社で、Ground Roses Ltd が 79%、Silver Acreage Ltd が 20%、EDL が 1%を出資している。2015 年末の新聞報道によると、年間約 2,000 GWh を発電し、2019 年か 2020 年には商業運転を開始する予定。発電された電気はラオス南部の需要を満たすため、EDL に販売される。

■状況

2006 年 3 月、マレーシア企業 MFCB 社は、ドンサホンダムに関してラオス政府との間で 18 ヶ月間の実施可能性調査を行う契約を結び調査を実施。ラオス政府はコンサルタント会社の AECOM オーストラリア・ニュージーランド社と SMEC ニュージーランド社を開発監督者として雇用していた。その後、オーストラリアン・パワーアンドウォーター社 (APW) が行った環境影響評価報告書がラオス政府に提出されている。これらダムに関する調査結果は、長らく非公開だったが、ラオス政府は 2013 年 10 月、加盟するメコン河委員会 (MRC) に対し建設を通知、環境影響評価書を公開している。またラオス政府は、ダムの建設地がメコン河が 17 に分れて流れるうちの分流のひとつでしかなく、流量もメ

コン河の総流量の5%だけなので、隣国と協議の必要がある本流ダムとは認識していないと公言した。一方、MRCが委託して行った本流ダムに関する戦略的環境アセスメントで、ドンサホンダムは常に本流ダムの一つとして扱われている。2015年3月には事業主体となるドンサホン電力社が設立され、同年10月、MFCB社はダムの技術・調達・建設を中国のシノハイドロ社に50か月3億2千万米ドルの契約で委託した。MRC加盟国である下流のベトナム、カンボジアは、このダムの建設に批判的な発言を繰り返してきたが、ラオス政府が計画を見直すには至らなかった。

■懸念される問題点

ドンサホンダムの建設は、メコン河の有する特殊な自然とそれに依存する希少な生物、80%以上の種が回遊性を持つとされる流域の魚が支える人々の暮らしに、次のような取り返しのつかない負の影響を与える。

漁業への影響

2007年6月に世界魚類センター（World Fish Center）が発表したレポート（参考資料4）は、メコン河の捕獲漁業が地方における生計や食糧安全保障に意味があるだけでなく、年間およそ20億ドルの価値と推定されるメコン流域国の漁業にとって経済的に重要であると指摘している。メコン河流域の捕獲漁業の漁獲高は、年間21億～38億ドルの経済価値があり、小売価格では42億～76億ドルになると推定されている（参考資料4）。また、コーンの瀑布群はメコン河下流における唯一の主要な滝であり、周辺はメコンにおける重要な漁場である。1994年に暫定メコン委員会事務局が発表したメコン河本流ダムによる漁業への影響についての評価は、コーンの滝について「生態学的にユニークな地域であり、メコン河下流の縮図である」であり、「こうした自然豊かな貴重な場所は、開発事業から守られるためのあらゆる努力が払われるべきだ」と指摘をしている（参考資料3）。

フー・サホンの特殊性

フー・サホンは、シーパンドン地域で唯一魚が通年で通過できる勾配の少ない分流である。ドンサホンダムはこの重要な回遊路を塞ぎ、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム4カ国でメコン河流域での漁業に頼る人々の生活を脅かす。メコン河委員会による1996年のニュースレターは、「フー・サホンを堰止めることはラオスのメコン河における漁業に壊滅的打撃を与える可能性がある」と指摘している（参考資料1）。

希少生物と観光業への影響

ダムはラオスで唯一、カワゴンドウ（通称メコン河イルカ）が生息する地点のすぐ上流に位置している。カワゴンドウは、メコン河で残り約80頭で多くがカンボジア領内に棲むが、ラオスには5頭が生息する。ダム建設の騒音等と魚の減少は、それをエサとするイルカの生存を脅かす恐れがある。イルカはコーン瀑布群と並び、この地域の重要な観光資源となっている（参考資料5）。

緩和策の効果は疑問

世界魚類センターのレポートは、魚の回遊の遮断に関するそれまでの研究を引用し、「さまざまな試みに関わらず、この地域におけるダムの漁業への影響を減少させたという効果的な例はない」と強調している（参考資料4）。メコン河流域で流し込み式ダム建設が、環境と社会に破壊的影響をもたらすことは、タイのパクムンダムの事例でも明らかである。（2016年1月改定）

【参考資料】

- 1) Baird, I.G.. 1996. Khone Falls fishers, Catch and Culture (MRC newsletter). Vol.2 No.2 November 1996.
- 2) International Center for Environmental Management (ICEM). 2010. *Mekong River Commission (MRC) Strategic Environmental Assessment (SEA) for Hydropower on the Mekong Mainstream: Fisheries Baseline Assessment Working Paper*. Vientiane, Lao PDR: MRC.
- 3) Mark.T Hill and Susan A.Hill. 1994. Fisheries Ecology and Hydropower in the Mekong River: An Evaluation of Run-of-the-River Projects. Mekong Secretariat, Bangkok, p.90.
- 4) World Fish Center. 2007. The Don Sahong Dam and Mekong Fisheries, A science brief.
- 5) World Wild Fund. 2007. The Don Sahong Dam and the Irrawaddy Dolphins, WWF Science Brief.